

令和六年度 入学式 式辞

穴水湾の内海が朝日を浴びて穏やかな表情を見せ、修復された登校坂に春の香りが満ちあふれた今日の良き日、穴水町長 吉村光輝様をはじめ、多くの来賓の皆様のご臨席のもと、令和六年度石川県立穴水高等学校「入学式」を、この由比ヶ丘の校舎で挙行できますことは、この上ない喜びです。

この度の能登半島地震により被災されました皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、これまでご支援いただきました皆様にご心から感謝と御礼を申し上げます。

また、保護者の皆様には、本日、このようにたくましく成長されたお子様の姿に、さぞや感慨深いものがあるかと存じます。

さて、先ほど、入学を許可いたしました、穴水高校、第78期生、29名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。穴水高校を代表し、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

この日を迎えることができたのは、新入生の皆さんの努力の成果であることは言うまでもありませんが、これまで皆さんを、時には優しく見守り、時には厳しく指導してくださった、家族や、小学校、中学校の先生方など、多くの方々の支えがあったからです。このこともしっかりと心にとめ、「感謝の気持ち」を忘れないでください。

本校は奥能登の重要な地に位置し、奥能登の学びの府として数多くの卒業生を輩出してきました。「勤勉・良識・心身鍛練」を校訓に、令和8年度創立80周年を迎えます。今日から穴水高校生としての誇りと自信を持って高校生活をスタートしてください。

1月1日の能登半島地震から3ヶ月が過ぎました。皆さんは中学校生活の最後の3ヶ月を大変な思いで過ごしました。避難所や仮設住宅等での生活を経験した生徒もいることでしょう。しかし、そのような困難な状況でも、皆さんは周りの人たちと支えあいながら、こうして立派に中学校を卒業し、高校へ入学してきました。本当によく頑張りましたね。

高校入学を機に、皆さんに考えてほしいことがあります。世の中には「変えられるもの」と「変えられないもの」があるということです。「変えられるもの」は「自分」と「将来」で、「変えられないもの」は「他人」と「過去」です。

「自分」のことはいつからでも、どれだけでも変えられます。意識と習慣を変えれば人は変われます。そして「将来」はこれから「自分」で築いていくものですから、いくらでも変えられます。変わりたい「自分」をイメージし、その「自分」になるために今何をすべきかを考えてください。明確な「自分」の目標が定まれば、あとは実行するのみです。

「他人」とは「自分」以外の人のことで、「他人」のことは変えられません。稀に指導者や周りの人たちの影響を受け、変わる人はいますが、その場合も、本人が変わろうとしなければ変わりません。したがって、「人を変えることができるのはその人（自分）だけ」なのです。

「将来」と違い「過去」は変えられません。能登半島地震で被害にあったところは、完全に災害前の状態に戻ることは難しいでしょう。生活の環境が変わってしまった生徒もいます。今後も我々にとって不便な状況は続くと思います。しかし、「過去」は変えられません。

今年度穴水高校は「復興元年」を合言葉に「再生」に向け歩み始めます。皆さんも変えることのできる「将来」に向け、一生懸命、後悔なく高校生活を送ってください。

結びになりますが、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。本校は、今日から29名の新入生の皆さんをお預かりします。これから三年間、教職員一同、皆様とともに子どもたちとその未来のために、力を尽くしていくことをお約束し、式辞といたします。

令和6年4月8日
石川県立穴水高等学校
校長 島崎 康一